

お客さま情報端末 II



東京電力(株)殿向け 通信端末装置 II

東京電力株式会社殿では、電力情報収集システム（自動検針システム）において、従来のHDLC方式から、将来の拡張性とコストダウンを考慮したCATV-LAN方式（ケーブルモデムによるアナログ光通信方式）への変更を行っています。

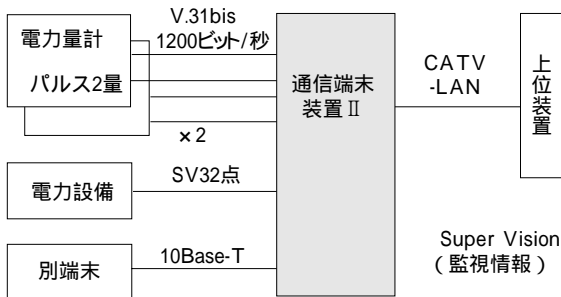
今回当社は、お客さま情報端末 II（通信端末装置 II）を開発し、これに対応しました。

特長

1) 新エンジンの採用

IP化端末のエンジンとして、従来素材にて使用していた汎用プロセッサを、プロセッサ単体としての性能が約3倍、消費電力、価格ともに約1/2となる組み込み向けプロセッサに変更しました。

新プロセッサの採用によって、今後のIP関連プロトコルに必要な処理能力を確保し、装置の小型化、低消費電力化を実現しました。



通信端末装置 II 構成例

注1) Peripheral Input Output (周辺入出力)

注2) Programmable Logic Device: プログラム可能な論理素子

2) 小型化に対応する回路アーキテクチャの構築

PIO^{注1)} 入出力レジスタおよび、PIO処理部をプロセッサの周辺に配置して、これらの回路をPLD^{注2)}にて集約することで、PIO関連回路の小型化を実現しました。

また、外部機器とのアイソレーションをPIOバスにて行うフローティングバス方式を実現しました。

3) IPネットワークに対するセキュリティ強化

IPネットワークに接続する装置のため、物理的な面および通信プロトコル的な面において、各種のセキュリティ対策を行いました。

基本機能仕様〔通信端末装置 II〕

項目	仕様
上位IF	CATV-LAN:1回線 セッションプロトコル:UDP アドレス付与:DHCP
下位IF	10Base-T:1回線
	調歩同期回線:1200ビット/秒×2回線
	パルス入力:2量×2
	SV情報:32点
冷却方式	自然空冷
電源・電圧	AC100V / 200V ,DC48V / 110V
環境条件	温度:0~40 湿度:45~85%
質量	約6kg
寸法(mm)	240(W)×140(D)×270(H)